【高等学校用】

令和２年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立佐賀工業高等学校
1　前年度 評価結果の概要	・基礎学力の向上と家庭学習の定着を目標に学校全体で取り組んだが、特に家庭学習の習慣が薄く全職員の認識や情報共有が十分でなかった。 ・基本的生活習慣を定着させるため、日ごろから生徒への声掛けを意識して行った結果、少しづつではあるが規範意識の向上につながった。ただ、交通マナーの向上にはまだ指導の余地がある。 ・働き方改革の推進に向けて、会議内容の見直しや運営委員会と職員会議を兼ねる等、時間の削減及び効率的な業務の適正化により意識の高揚につながった。
2　学校教育目標	歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。
3　本年度の重点目標	○ “ものづくり” から “者（ひと）づくり” そして “未来（あす）づくり” ア　規律ある高校生活の定着　　イ　ものづくり教育の推進 ウ　部活動の充実　　エ　開かれた学校づくりの推進

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○わかる授業の実践と学習意欲の向上に向けた学習指導の充実。	○授業アンケートにおいて丁寧でわかりやすい授業と感じている生徒80%以上。	・研究授業、公開授業を行い、職員相互の授業参観で良いところを取り入れ、わかりやすい授業をめざす。	B	・12月に実施した授業アンケートでは、95%と2ポイント向上できた。 ・年間22回の研究授業を実施をした。各教科でICTを活用した実践ができている。	B	・生徒アンケートを見ても、わかりやすい授業を実践してもらっている。ただ、生徒が予習・復習に積極的に取り組めるような工夫が欲しい。
	○資格取得の推進。 ・各科の重点資格と基礎資格の合格率増を目指す。 ・ジュニアマイスターのゴールドとシルバー取得者増を目指す。	○資格取得において75%以上の合格率を目指す。 ・ジュニアマイスター取得者は全校生徒の数の5%を目指す。	・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・全員受験基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。	A	・今年度のジュニアマイスター認定者は、ブロンズまで含めると100名であった。また、特別表彰も1名であった。 ・資格取得は、コロナ過で延期になっていた資格試験が実施されたが各科対応してもらった。そのためある程度の合格率が維持できた。	B	・資格取得で実績を上げている。さらに高度な資格に挑戦してもらいたい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○生徒の状況把握に努め長期欠席や断続欠席者の10%減少。 ○心の教育に関する講演会、授業を年間5回以上。	・生徒と会話を密にして、職員、家庭と連携を取り、早めの対応に努める。 ・外部講師を招聘した講演会や授業、ホームルームにおいて心の教育に取り組む。	A	・今年度2月現在で10日以上の欠席は6人であった。健康管理が徹底されたこともあり体調を崩す生徒が減り、1カ年皆勤は大幅に増加した。 ・体育館行事を避けリモートでの集会が多くなった。コロナに関する誹謗中傷もあり、人の痛みを考える良い機会ができた。	A	・遅刻・欠席が著しく減少し、皆勤者が大幅に増加している。丁寧な指導に感謝する。
	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応体制の充実	○生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができるようにする。 ○大人にSOSを出せるように、相談環境を整え、生徒の居場所を作る。	・定期的にいじめアンケートを実施し、結果をもとに関係機関との連携など、早めの対応に努める。 ・常時、生徒が相談できる環境作りを行う。	B	・悩みのある生徒に対して、担任、SCを中心に相談を行い、悩みの解消に努めた。 ・生徒及び保護者の新型コロナウイルス感染に伴い、SCの緊急配置をお願いした。	A	・担任、SCを中心に心の悩みの解消に力を入れている成果が現れている。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒70%以上	・「佐賀語り」やDVD教材を活用し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・外部講師を招聘し、郷土愛を育む講演を行う。	A	・「佐賀語り」を活用した行事を昨年できていなかった。佐賀の研究やレポート作成で佐賀を掘り下げることができた。今後、DVD教材もぜひ使用していきたい。 ・佐賀に愛着を感じている生徒が76%であった。	B	・地元に残って頑張りたいという生徒が増えているのはいいことだととらえている。
●健康・体つくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上を目指す。	・「保健だより」を発行して、健康面や栄養面の情報を提供する。 ・食に関するアンケートを実施して、食習慣などに意識を持たせる。	B	・「保健だより」を通して、食習慣に関すること、体調管理について情報を提供することができた。また、コロナ禍の中で注意を必要とする点など呼びかけることを徹底した。	B	・食習慣は健康面で最も大切なこと。さらに力を入れてほしい。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の生活事故、交通事故を0（ゼロ）にする	・年１回の警察による交通講話の実施。生徒指導部による登下校指導。	B	・交通事故の９割以上は、車の方に事故原因があった。通学中の苦情も減り、大きな事故はなかった。	B	・各種講話のおかげで生徒が安心安全に学校生活を送れている。自転車の事故には注意してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・校務を見直し、業務の偏り不均衡を是正する。 ・部活動実施計画を確認し、部活動指導者を交代で指導に当たらせることで、週休日勤務を昨年度より2割削減する。	B	・定時退勤推進日を設け、朝礼時に確認したこともあり水曜日は帰宅時間が早くなった。超過勤務月100超、平均80超の職員は年間を通して0であった。 ・特定の部活動顧問に超過勤務時間の多い職員がおり、交代で指導に当たるよう再度指導していく。	B	・充実した生徒の指導には教職員の健康面・精神面の安定が欠かせない。継続して取り組んでほしい。
	○事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	○教育行政職員の専門性を活かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。	・教員との連携を密にし、情報共有を行い、学校の現状を把握して一つのチームとして学校運営に取り組む。	A	・教員と連携・協力して情報共有を行い、チーム学校として学校運営に取り組めた。	A	・学校、後援会の連携を今後も継続して取り組んでほしい。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○進路実現	○生徒・保護者の負託に応じた進路指導の充実	○進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の一次合格率を上げ、進路決定率の年内100%達成を目指す。	・進学補習等で基礎学力を向上させる。 ・面接指導、集団討議訓練を実施する。 ・企業訪問報告会を6月、3月に実施する。 ・SPI試験の対策に小テストを実施する。	A	・面接指導、集団訓練については成果を上げた。 ・コロナウイルス感染の中、先生方の努力で応募前職場見学がリモートを含む形ではあるが実施できた。 ・社会情勢の変化の中、臨機応変に対応し進路決定率の100%達成がなった。	A	・コロナ禍で指導も大変だっと思うが保護者の負託にこたえた進路実現をしてもらった。
○学びのトレーニングによる基礎学力の向上	○学習意欲の喚起と基礎学力の向上	○基礎学力講座小テストの各学年における正解率75%を目指す。	・学びの時間を学年に応じた内容で実施し、学習の習慣化を図る。 ・生徒の学力について現状や改善点を職員間で情報共有することに努める。	B	・学習しようという意欲のある生徒は80%。それを実際の行動にいかにつなげていくかが課題である。 ・基礎学力講座小テストの年間正答率は3年84%、2年65%、1年81%。特に2年生の高校基礎レベルの学習に対する取り組み方が改善し、2学期以降の小テスト正答率が75%に上昇した。	B	・全ての土台となる基礎学力向上の充実に努めてほしい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	○学校教育目標を達成すべく、本年度の重点目標を定め、各評価項目について取り組んできたが、「概ね達成できた」と考える。 ○生徒アンケートでは「家庭学習の定着」の項目では低評価であった。工業技術者となるためには、自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが大切でありことから、次年度以降も改めて取り組みを充実させたい。 ○今年度は学科改編により6学科6クラス導入の初年度であった。移行期間の対応を円滑に実施して、将来の進路を見据えた具体的で興味・関心の高まる教育課程を編成し、工業教育の活性化を図る。